

碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩 心 会 発 行

4年11月現在 会員数
169名
返子地区 1
葉山地区 2
大船地区 4
(合計) (454)名

4年11月号 (244号)
4年11月 号 (244号)
根 岸 者
中 編 集 者
岳 者
岳 者
萃 愛

行事予定

(葉山町文化祭詩吟詩舞の会)

とき・12月6日(日)10時〜16時

ところ・葉山町福祉文化会館

(碩心会指導者講習会納会)

とき・12月7日(月)18時30分より

ところ・六代御前社務所(欠席の時は連絡)

(碩心会返子地区温習会)

とき・12月13日(日)9時30分より

ところ・返子市立図書館ホール

第102回 全国大会コンクールに入賞

右大会に神奈川県本部から左記二組が見事入賞しました。

(合吟コンクール)

一位・文部大臣賞

横南吟道会

女子10名

(連吟コンクール)

二位・

野口湘加藤湘

松井碩男子3名

碩心会から松井正風さんが右の通り入賞、

おめでとございました。

碩心会 新役員(副部長以上) 連絡協議会

日時・4年10月25日(日)10時〜14時30分

場所・堀内会館

司会進行 加藤 岳 洵

(1) 会長挨拶

会長 根 岸 岳 萃

故松井岳洋先生の樹立した方針を堅持して従来通り、楽しみの中に吟道に精進してゆきたいのでよろしく。

又会員の増加と共に、やめる人を減少することに協力してほしい。

(2) 新役員の紹介

加藤司会者から役員全員紹介、新任役員からひと言づついただいた。

(3) 副会長・参事・部長・地区長挨拶

副会長 千 葉 岳 関

「発言には責任を持つ」「慎重の上にも言うべきことは言う」「間違いと判ったらはつきり訂正する」との主義で、会長の意を体して補佐してゆく。

又運営方針としては、岳風会の基本理念である「崇高」と「典雅」の精神を以て、岳風会の憲章と、吟道精神を初心に返って徹底し

てゆきたい。

参事

沼田岳雷 小峰岳海
井沢岳潮 秋元梁岳

年を重ね順次若い人に譲ってゆくのは当然のこと乍ら、正直いって淋しいが、若い人にしっかりやってくれることを期待する。

次に各部長、地区長、監査の挨拶あり。

(紙面の都合で省略)

(4)各部分科会

11時～11時30分まで、各部・各地区毎に分科会をもち、打合せをなす。

(5)全体会議

(総務部)

○名簿の改訂の要請があるが、予算措置が必要な為、来年度に計りたい。

○60周年記念行事の為の集金事務は会計部に移管した。

○奥伝以上の会員証の新規分を配付するが、今後退会する時は原則として返還する様に。

(許証部)

○許証授与の時、奥伝以上許証者の登壇、降壇は安全対策として、降りるのが危険なので、退場は裏からとしたい。

○審査日を色々な都合で土曜日にする場合もあることについて検討したい。

(教務部)

○碩心会の指導者講習会の会計は松野副部長
総本部・県本部の場合は部長が担当。

○指導者講習会の在り方、松井岳洋先生の韻読の符付の保存、伝習についての意見が出されたが、之は指導者講習会で検討してゆくことになった。

(広報部)

○広報部として教場稽古風景等取材を計画。

○各支部順番制で毎月割当投稿依頼の計画。

○副部長が各地区別に原稿集めの役割分担。

(企画部)

○碩心会吟行会は前回から三年位経つので、来年あたり実施を計画したい。

(会計部)

○9月現在の残金は一六五、六一八円

○総本部への一括納金が4月の為、集金してからでは遅くなり苦慮している。

(葉山地区)

○逗子、大船両地区長欠席の為三地区協議はできなかった。

○県本部、各地区吟道大会の割当は、少なく

ても15日前に通知してほしい。

(逗子地区)

○12月13日の逗子地区温習会のプロ印刷中。之に対する協力をお願い。

(大船地区)

○来年は大船地区の温習会であるが、碩心会全体の行事であるので、前もって常任理事会へ相談して準備する様にとの千葉副会長よりアドバイスあり。

(6)フリートークキング

○連絡網の整備。

○名簿の改訂は周年大会等に記念行事の一環として更新したらどうか。

○60周年大会をやる場合、高齢者積立を免除したらどうか。

○当会の総会に当る理事会はわずか二時間位で終了しているが、日曜・祭日など利用して充分に意見を出してもらったらどうか。

○その他

(7)閉会のことば

貴重な意見を出していただき大きな力を得た。各問題点を指摘、案を出して大いに参考にしたい。尚本日欠席の役員にも伝達してもらいたい。

14時30分終了

(二日目) 十和田の紅葉に歓声

真澄 星野 輝風

10月17日午前8時、根岸会長以下頑心会員30名は、東京駅で神奈川県本部参加者と合流総勢200余名となり新幹線で盛岡へと出発。

11時30分盛岡着。そこから5台のバスに分乗出発。晩秋の美しい碧空の下、この地方独特の、案山子の様な稲架けが点在する田園の間を縫って、啄木の詩歌に詠われた清冽な北上川に沿って走る。バスの中は早くもお菓子と、ジョークが行き交い、笑い声が絶えない。鹿角市の「秋田美人」で昼食をとり、発荷峠紅葉鮮やかな八幡平を経て大湯りんご園へ。りんご狩とはいっても試食は一人一個。緑の間から顔をのぞかせているりんごは童謡の世界だった。早くも故郷へのりんごの発註に皆さん大童。

バスは進み、憧れの十和田湖へ。深い谷間は紅・黄・緑の紅葉で埋めつくされ、その間から忽然と湖が現われた時はいっせいに歓声が上がった。そして夕方四時頃遊覧船に乗る。

湖上の風は肌寒く、晴れ上がった空に白雲が二、三片。広々とした湖面の澄明な美と、四囲の今を盛りの紅葉の山々との、自然の調和の見事さに息をのみました。島々を巡り、去り難い思いで夕陽の映える湖を後にしました。いつの間にか闇に包まれ、音に聞く奥入瀬溪流はあまりはつきりみる事ができず残念でした。

6時頃グランドホテルに到着。ホールに岡本太郎による壮大な暖炉あり、紅葉の夜景の美しいホテルで、夕食の御馳走を前に、明日の大合吟の練習をして、充たされた思いで、第一夜の眠りにつきましました。

(二日目) 詩情ゆたかなみちのく大会

逗子A 渡辺 秀岳

10月18日大会の日、天気よし。会場へ着くと先着の根岸会長と松井先生が出迎えて下さりホッとす。新しく大きな素晴らしい会場の指定席に腰をおろしたのは9時30分。舞台に目をやると何と緞帳の素晴らしいこと。遠くける山々に浮かぶ雲、錦織りなす山の紅葉に映える十和田湖の風景の緞帳は実に見事であった。

10時緞帳があがりいよいよ開会。修礼にはじまり、国歌斉唱、開会の辞があり、続いて入賞杯返還、全員で「朗詠」の大合吟が会場をゆるがし、次に長谷川理事長が昭和天皇御製「あめつちの神にぞ祈る夕なぎの 海の如くに波たたぬ世を」を謹詠されましたが、昭和天皇の御心にふれ涙して拝聴しました。

これより第一部一般吟詠に入り、プロ8番の陸中岳風会の男性10人の合吟が、白の上着に黒のズボン、背の高さも揃っていて颯爽としてステージに現われた時は、その清楚の中の美しさに、ハッと息をのみました。独吟、合吟と熱吟がつづき、さすが全国大会に出吟するだけあっていずれ劣らぬ立派な吟でした。次に会旗入場となり、満場拍手の中総本部旗以下各団体の会旗が舞台狭しとばかり堂々と入場、神奈川県本部の会旗を見た時、なぜかホッとしました。大会会長長谷川先生の挨拶「吟道をして永遠の命あらしむ」の言葉があり、次いで青森市長代理の祝辞があり式典は11時55分終り昼食休憩に入りました。

第二部連吟及び合吟コンクールが始まると場内はまるで水を打ったように静まり返り、一吟たりとも聞きのがすまいといった感でした。

た。選ばれた人達も日頃の練習の成果を精いっぱい発揮、熱吟の結果発表を待ちました。

会旗退場して第三部構成吟に入る。〃みちのくの詩歌を訪ねて(十和田湖とその周辺の巻)〃と題して、其の中に「右左かつらもみじのかけにして 滝を見る目の忙がしきかな」と詠みあげられましたが、昨夕奥入瀬の溪流を見てきたばかりですが、秋の落日は早く、ガイドさんの説明通りに見ているとまさに詩の通りでひとり微笑んでしまいました。

役員吟詠も残り4時35分希望のコンクールの発表：待ちに待った時がきました。そして発表の結果、合吟コールに一位、連吟コンクールに見事二位と神奈川の存在を全国に知らしめました。そして連吟メンバーの中にわが碩心会の松井正風さんがいたのです。素晴らしい成績に興奮さめやらぬうち万歳三唱により大会の幕はおろされました。

そのあと再び綴帳が上がり、高橋竹山他13名による津軽三味線の連弾が披露され、思いがけずみちのくの旅情をたっぷり味わい、感動のうちに、青森文化会館を後にしました。

※紙面の都合で第三・四日目は12月号に掲載させていただきます。

白居易 (中唐の詩人)

(略歴)

(772(846) 姓は白、名は居易、字は楽天、号は香山居士・醉吟先生。自ら山西省太原の人と稱すが、実は下部(陝西省)の人。二八歳で科挙(官史登用試験)に合格、天子の詔勅を作成する官(翰林学士)を始めとして諸官を歴任後、越権行為のかどで左遷されて江州に流される。後・許されて中央に戻り、刑部尚書(現在の法務大臣)で官を終える。引退後は悠々自適の晩年を過ごした。

(詩風)

彼の詩は三つに大別される。諷諭詩・閑適詩、感傷詩である。諷諭詩とは社会の不正を風刺したもので、杜甫の影響を受けている。閑適詩とは自己の静かな生活の中の楽しみを歌うものである。感傷詩とは物事に触れて生じた感傷を歌うものである。「長恨歌」がその例である。彼自信はこの順に詩の価値を重んじていたが、逆に一般に最も好まれたのは感傷詩である。わが国にも大きな影響を与えた詩人である。

(悲恋物語「長恨歌」)

玄宗皇帝は楊貴妃におぼれてしまったために楊一族を重んじ、政治は大いに乱れることとなった。その隙に乗じて安録山が反乱を起こし、皇帝は命からがら都を捨て、成都へと落ちのびるのであった。途中こんな目にあうのは楊一族のせいだと部下たちが騒ぎ出し、宰相の楊国忠をはじめ、楊一族の者を処刑する。それでもおさまらぬ部下たちは、楊貴妃も殺せと玄宗に迫るのであった。最愛の女性を殺す命令は出せぬと、玄宗は逡巡するが、ことここに至っては如何ともし難く泣く泣く処刑の命令を出すのであった。

この史実に基づいて作られたのが、一大叙事詩「長恨歌」である。

(教場一覧表の追加)

9月号掲載の一覧表に長柄支部(竹石岳泓水曜日10時~12時を追記いたします。

さざんかは俳句歳時記では冬の花とされて
いるが、晩秋から初冬にかけての花。この花
が咲き始めて散り終る間にあたりの緑は消え、
冬景色に変わってゆく。風邪など召さぬよう。